

### 「占冠村と地域総合交流協定を締結」

本学と占冠村との地域総合交流協定の調印式が、6月6日（月）に、占冠村総合センター2階視聴覚室で行われました。本学からは谷山弘行学長以下関係者5名、学生5名が出席、占冠村からは中村博村長以下関係者10名が出席して調印式が行われ、協定書が交わされました。



占冠村では、数年前からエゾシカによる農林被害が深刻化し、本学に打開策を相談していて、これがきっかけになり交流が始まりました。エゾシカ対策だけでなく、高齢化、後継者不足対策や6次産業化を目指した地域特産品の開発、そして新農法や新耕種作物の開発を含めた農業振興に関すること、GISを活用した森林、河川、農地などの環境保全調査の3つを軸に地域連携を深めていきます。



調印式で中村博村長は「エゾシカについて、生物多様性保存や環境保全等もあり、駆除と保護の総合的な対策を練らなければならない。その成果が全道に広がっていくことを期待するとともに、大学から人が来てもらい、地域の人たちと交流することにより、地域活性化につながって欲しい」と挨拶しました。



谷山学長は「酪農学園は、健土健民と循環農法をうたい、創立して78年になります。また、大学は今年大きく教育システムを変え、未来に向かっての準備を行いました。農、食、環境、生命という4つのキーワードで、限りある資源を持つ地球上で、私たち人類が未永く発展していき、そのために社会に貢献する若い世代を輩出していきたい」と挨拶しました。

